



【2016-08-24】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週は、雑感です。
カントリーミュージックと
日本酒

長野修二

カントリーミュージックと日本酒

日本酒は、その土地で飲むのが一番かもわかりません。

もっとも、日本酒に限りませんが、食の原点は、その土地にあるからでしょう。

信州は出張以外にいったことがありませんでしたが、この2月の終わりにはじめて駒ヶ根を訪れました。

まず、標高が高い山々の景色に驚かされますが、行くところ見るところ驚きの連続でした。



どちらからかといえば平野で育った人間からすると、真逆な風景ですから山が近く、町は傾斜地に成り立っており、豊かな森と水の世界がまじかに迫ってきます。

池はところどころ結氷していますが、川は豊富な水量とともに木立の間を縫って流れています。

平野の川とは違い透き通った水が速い流れを作っています。

森の中は、マイナスイオンが充満しているようで関東平野の空気とは丸きし違うと感じることができます。



駒ヶ根は次男の赴任地であり、はじめて一人暮らしをしているところですが、いきつけのカフェのマスターが仲介して国立大学のメンバーによる、主体は東北大学の学生がだったようですが、カントリーミュージックの一夜があるということで訪ねました。みな、なかなか文芸両道ですばらしい音楽のひとときでした。

駒ヶ根は以前からカントリーミュージックに溢れている町のように見えますが、ここに赴任した東北大出身のメンバーによって今回の演奏会が催されたようです。



そういう私は日本酒を飲みながらカントリーを聴いていましたが、若い人たちときさくに話ができ、とても明るい気持ちになれました。

日本の若者も元気がよく、これから先、このような若者たちに多くのチャンスを与える社会ができるかどうかで、日本の将来も決まってくるのではないのでしょうか。

ここで飲んでいた日本酒は、「[信濃錦](#)」でしたが、しっかりとしたつくりの辛口でした。ホテルの周りの景色が目に焼き付いているのでカントリーの音色とともに飲む日本酒はすばらしく旨く、少々に飲みすぎたきらいがないでもありませんが、その後は夜のとばりの中で入る露天風呂はさらに心地よいものとなったでしょうか。

信濃錦 極辛口



次の日の昼は駒ヶ根名物「[ソースかつ丼](#)」を食べ、夜は、てんぷらをつまみに「[信濃鶴](#)」を飲みましたが、こちらは芳醇な味が特徴な辛口でしょうか、地元の水と米と、日本酒がつくられたところで飲むのですから、また格別に旨いものです。

信濃鶴



次男の御蔭で地元の人達とも知り合いになり、すばらしい景色を堪能させてもらい、息子はこのような風景に囲まれて仕事をしているのですから、それだけでも感謝すべきなのではないでしょうか。

人生はひよんなことから多くの出会いと学びがありますが、あまり自分の人生を小さくまとめることなく流れに乗ってみることも大切ではないでしょうか。

そこに新たな出会いやすばらしい風景、さらに多くの人々の営みがあり、それぞれの人生を豊かにしてくれます。

大手企業への就職は、ある意味で人生ルーレットのようなものです。

どこへ飛ばされるかわかりませんが、案外その先に面白いことが待っていることもあるのかもわかりません。

そしてそのような息子の赴任地のおかげで私たちのような親世代も豊かな人生をも

らっているようです。

将来、海外勤務もあるのですが、その土地にはその土地なりのすばらしさがあることは、海外赴任した技術者などからよく聞く話ですし、最初いきたがらなかった人ほど、帰任を嫌がり、感動して帰国したものです。

閉塞感が漂う時代ですが、自分の人生を、少々ルーレット的に眺めておくことは、人間にとって意味があることかも知れません。